

大地の声



野田市船形の瀬能幸作さんは、約13haの規模で水稻栽培をしています。
周囲の協力を得ながら、規模の拡大を目指しています。

詳しくは16ページをご覧ください

令和5年産米の出荷が始まりました

JAちば東葛では、8月下旬から9月下旬にかけて令和5年産米の検査を行いました。

管内では、主力の「コシヒカリ」を中心に、早生品種の「ふさおとめ」「ふさこがね」、千葉県独自の品種「粒すけ」、野田市のブランド米「黒酢米」が作られています。

例年にも増して暑さが続きましたが、生産者の皆さまの管理により、令和5年度出荷契約量（主食用米31,734俵、飼料用米約1,316トン）通り、概ね順調に集荷されています。

令和5年産米は9月15日から販売を開始し、11月30日までキャンペーンを行っています。

ご購入の際は最寄りの支店・センターまでお問合せ下さい。



東部地区経済センター



富勢支店



福田支店



野田地区経済センター



二川支店



旭支店

JAちば東葛 令和5年産 新米キャンペーン

令和5年9月15日(金)～11月30日(木)



野田市産コシヒカリ

- ちばいちばん(黒酢米:5kg)
キャンペーン特別価格
2,200円(通常価格 2,400円)
- ちばいちばん(黒酢米:10kg)
キャンペーン特別価格
4,300円(通常価格 4,700円)

我孫子市・柏市産コシヒカリ

- 我孫子市・柏市産コシヒカリ(5kg)
キャンペーン特別価格
2,100円(通常価格 2,300円)
- 我孫子市・柏市産コシヒカリ(10kg)
キャンペーン特別価格
4,100円(通常価格 4,500円)

優良賞を受賞しました



酪農業の発展・酪農経営の安定と、乳質向上による有利販売に繋げることを目的に、関東生乳販売農業協同組合連合会が主催する「第15回関東生乳品質改善共励会」で、関宿支店管内の酪農家・林雄次さんが優良賞を受賞しました。

令和4年4月から令和5年3月に行われた生乳検査で、乳脂肪率など4つの項目と乳量で優秀な品質を保持したことにより、同連合会に所属する関東1都8県の酪農家全1,807軒の中で51位に選ばれました。



受賞に際し、林さんは昨年を振り返りながら「昨年は特に管理が行き届いていたと思います。搾り過ぎや餌のあげすぎなどで牛がストレスを感じないように、一頭一頭細かく様子を見ていました。入賞は大変光栄なことです。これからも質のいい生乳が出来るよう努力していきたいです。」と話しました。

林さんは現在約30頭の乳牛を育てています。酪農業も厳しい状況にありますが、頭数を増やしていきたいと今後の抱負もお話しいただきました。

色彩選別機を新たに導入—JA



JAでは8月下旬、東部地区経済センターに新たに米の光色彩選別機を導入いたしました。

同センターでは地元産米を精米し、一般消費以外に学校給食としても使われています。一人でも多くの方に安心して味わってもらうため、現在導入している選別機に加えさらに精度の高い選別機を合わせて稼働することとしました。今後もより安全・安心の提供と品質の均一化を図ります。

なお、この導入に際し、JA共済が地域活性に貢献する取り組み「地域・農業活性化積立金」を活用しました。

千葉のお米を召し上げれ！—農産物直売所ふなっこ畑



新米の季節を迎えた9月16日、農産物直売所ふなっこ畑で令和5年産米の試食会を行いました。

より多くの方に食べていただこうと、毎月恒例の朝市に合わせて柏市産コシヒカリと粒すけをそれぞれ1升ずつ店内で炊き上げました。

実際に試食をした方からは「粒すけを始めて食べました。買ってみます。」「やっと新米が出てきたんですね！」といった嬉しい言葉をいただきました。



県内産米の普及のため、消費者に近い直売所の強みを活かしてPRを継続してまいります。

出荷を前に情報共有—JA ちば東葛柏小かぶ共撰部会



秋冬の出荷に向けて挨拶する江口部会長

秋から始まる本格出荷を前にJA ちば東葛柏小かぶ共撰部会は8月29日、柏支店会議室で秋期販売会議を行い、生産者29名のほか、東葛飾農業事務所、JA全農ちば、JA役職員、市場10社が参加しました。

JA全農ちばから各地の情勢、農業事務所から病害虫や気象についての報告がされたあと、各市場から小売りの動向や出荷に対する要望がありました。今年は特に暑さが続き少雨であったこと、一方で記録的な大雨が降るなど、全国各地で起こる異常気象により作況や品質が不安定であることが共有されました。

会議を前に江口武部会長は「暑さが続き品質に心配が残るが、適切な出荷情報で有利販売に繋げたい。」と挨拶しました。

広大な植物園を見学—JA ちば東葛花植木生産者組合



西船地区のJA ちば東葛花植木生産者組合の生産者5名は、9月3日から4日にかけて視察研修会で北海道を訪れました。

一行は、北の造園遺産に認定されている「中野植物園」を見学。私設の植物園とは思えない5haもの広大な敷地は、100年以上家族経営で守られており、生産者からも「こんなに管理しきれない」と驚きの声がありました。

その他にも、エスコンフィールドや余市蒸留所など、新旧歴史が入り交じった北海道の街並みを楽しみました。



中野植物園で

消費地近郊の強みを生かして—JA ちば東葛予冷部関宿部会



市場関係者と確認する生産者(左)

JA ちば東葛予冷部関宿部会は9月5日、岡田集出荷場でほうれん草と春菊の出荷査定会を行いました。

生産者17名と東葛飾農業事務所、JA全農ちば、市場関係者が出席し、これから始まる出荷を前に規格の統一を行いました。

JA全農ちばが他産地の動向や他品目の現状などの説明を、市場関係者が市場の動向を報告したあと、それぞれの現品査定を行いました。

主要産地でも酷暑の影響が大きく、生育不良などで首都圏に入っていない現状がある中、配送会社や市場と連携して都市近郊の強みを活かした安定出荷をすることで意識を統一しました。

同部会では、9月中旬から共撰出荷が始まり、1月いっぱい続きます。

農業技術の歴史に触れました—JA ちば東葛西船地区青壮年部



JA ちば東葛西船地区青壮年部は9月6日、36名が参加してレクリエーション活動を行いました。

この日は、今年1月にオープンした「YANMAR TOKYO」内の「ヤンマー米ギャラリー」を訪問し、米をテーマにした施設を見学しました。米の説明から米作りの進化と技術の発展まで、タッチパネルなどを使用した体験型の展示場で、米と農業技術の歴史・展望について学びました。

その後、船橋市内のバーベキュー会場へ移動し、それぞれ親睦を深めました。

近年の資材高騰や異常気象で、さらに農業を取り巻く環境は厳しくなる中、部員同士切磋琢磨し、地域と農業の振興に向けて意見交換を行いました。



YANMAR TOKYOにて記念撮影

スマホを有効活用するために—JA ちば東葛野田地区女性部



8月24日、JA ちば東葛野田地区女性部は野田地区多目的ホールで第3回女性部短期大学「スマホ教室」を開催しました。

今回はドコモショップのスタッフを講師に迎え、11名が参加。実際に自分のスマホを手に取り、基本から応用までを学びました。聞きなれない単語もありましたが、スタッフのフォローを受けながら新しい機能を習得しました。

参加者からは「地図アプリでなかなか行けない場所が覗くことが出来て楽しい」と新しい発見を楽しんでいました。



皆さん真剣な表情でした

相続について学びました—JA ちば東葛柏地区女性部



将来について考えました

たいと思う。」と前向きな意見がありました。

JA ちば東葛柏地区女性部は8月29日、柏支店会議室で家の光講座を開催し16名が参加しました。

この日は「相続虎の巻セミナー」と題し、(一社)家の光協会の足立彩乃氏を講師に、実際に起こりうる事例を交えながら相続に必要なことや事前に準備すること、注意点やポイントなどを学びました。

参加者からは「相続と言われても漠然としていたので、いいきっかけになった。これからは備え

次世代のリーダー育成—JA



JA ちば東葛では、次世代の地域・地域農業及びJAを担い支えるリーダーの育成を目的に、協同組合講座を開講しました。

9月21日に行った初回講座では、各地区から推薦で選出された組合員とJA職員の15名が出席しました。(一社)日本協同組合連携機構の西井賢悟氏と当JA矢口勇二常務を講師に、受講者はJAの基礎や講座が目指すものを学びました。

その後行ったグループワークでは、地域やJAが抱える課題や展望などを話し合い、問題解決に向けて情報共有をしました。

同講座を受講する16名は、今後、持続的な社会を作り上げる仲間として1期2年間に渡り講座や研修を受けていきます。



真剣に講師の話を聞く受講者

営農情報

【肥料の紹介】

～アブラナ科野菜の肥料削減！省力化を！～



東部地区経済センター



佐々木 彬

近年、肥料の価格高騰に伴い化成肥料の削減が叫ばれています。コスト削減に向け、今回は追肥を省ける化成肥料**紅一発**・**蒼一発**をご紹介します。

この時期はアブラナ科の野菜が栽培されます。この肥料は、畑に使う化成肥料では少ない一発肥料で、基肥として使用すれば追肥を省略・肥料の削減と省力化を行うことができます。

1. 紅一発J

成分		N	P	K	クド
	成分	17%	16%	10%	3%
	成分量	3.4kg	3.2kg	2.0kg	0.6kg

- 特徴
1. 夏季に播種・定植する野菜全般
 2. 全量基肥施肥の一発肥料なので追肥の省略
 3. 生育初期から収穫期まで肥効が持続する設計
 - ・施肥量(10a当たり) * 全量基肥施肥



施肥量	作物	袋数	N成分量
	キャベツ、大根、カブ ニンジン、ホウレンソウ	4袋(80kg)～6袋(120kg)	12kg～18kg
	ブロッコリー、菜花 カリフラワー	6袋(120kg)～9袋(180kg)	18kg～27kg

2. 蒼一発J

成分		N	P	K	クド	ホウソ
	成分	15%	12%	12%	1%	0.2%
	成分量	3.0kg	2.4kg	2.4kg	0.2kg	0.04kg

- 特徴
1. 年末年始収穫の野菜全般
 - ※紅一発とほぼ同じ



施肥量	作物	袋数	N成分量
	キャベツ、大根、カブ ニンジン、ホウレンソウ	4袋(80kg)～6袋(120kg)	12kg～18kg
	ブロッコリー、菜花 カリフラワー、スイートコーン	6袋(120kg)～9袋(180kg)	18kg～27kg

他店と比較してみてください！

組合員特別価格第2弾

農薬お買い得情報！

当JAでは下記の通り、組合員の皆様へ農薬を特別価格にて販売いたします。



農 薬

品 名	規 格	通常価格 (税込)	組合員特別価格 (税込)
フォース粒剤	3 kg	3,231 円	2,951 円
ダイアジノン 5%粒剤	3 kg	2,227 円	2,047 円
ネマトリンエース	5 kg	4,125 円	3,790 円
	10 kg	7,562 円	6,765 円
ゴーゴーサン細粒	3 kg	1,840 円	1,688 円
ラウンドアップ	500 ml	2,612 円	2,431 円
	1 L	4,722 円	4,305 円
	2 L	6,982 円	6,243 円
	5.5 L	13,819 円	12,243 円
	20 L	46,620 円	41,483 円

ご注文は、お近くの支店・経済センターまでお願いいたします。
 なお、ご注文締切日は **令和5年11月22日(水)** となります。
 この機会に是非お買い求めください。

千葉県農業用生産資材価格高騰緊急支援事業

農業用生産資材の価格高騰の影響を受ける
農業者の皆さまに給付金を交付します。



申請期間

令和5年8月30日(水)～令和5年12月15日(金)まで
令和5年1月1日以降に営農を開始した認定新規就農者は、令和6年1月31日(水)まで

【交付対象者】 生産性向上に取り組む農業者

- 個人事業主の場合、原則として青色申告を行っている場合が対象です。
- 直近決算における生産資材費※が20万円以上の場合が対象です。

【給付金額】

直近の決算書類における「生産資材費※」の1割
(上限20万円)

※生産資材費は、「種苗費」「農具費」「農薬衛生費」「諸材料費」となります。

申請方法

1 郵送申請



2 オンライン申請



3 説明会での申請



◆1～3のいずれかの方法で申請ができます。

【お問合せ先】 千葉県農業用生産資材支援事務局

郵送・お問合わせ先 〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-12-1 第11東ビル3階



0120-985-124

平日 10:00～19:00

※休業日：土・日・祝日、12月29日～1月3日

専用ウェブサイトURL

<https://jimukyoku.site/chiba/nogyoshien/>

千葉県 農業資材 支援

検索

